

## ①キーワード(キーセンテンス)の発見

「あった方がいい語」ではない。評論の問題が苦手な人はこの区別に注意していないことが多い。

《その一》繰り返される語句（内容）がキーワード。

重要な内容であれば、筆者は何度も繰り返さざるをえない。

《その二》削って削って、最後に残る語句（内容）がキーワード。

一番重要な語句・内容…一次要素  
次に重要な語句・内容…二次要素  
…以下、三次要素

《その三》接続語が出しているサインを見逃すな。

「接続語」とは……語句と語句・文と文の間に挿入できる語。下記の表参照  
接続語に注目することによって、重要な部分が識別できる。

《その四》構文を意識せよ。(「その言い方にはわけがある」)

・譲歩構文 「もちろんAである。しかし、Bである。」  
・その他、反語構文、強調構文、倒置法など。

《その五》二項対立はほとんど万能。

キーワード（キーセンテンス）とキーワード（キーセンテンス）の関係を把握し、その関係が明確になるような記号や接続語を文中に書き込む。

※重要と思われる部分に線を引いてわかったようになりながらも、「結局どうい

「うことか」を答えられない人が多い。内容把握があいまいなためである。適切な接続語を挿入できないということは、関係が把握できていないということである。

キーワードと接続語を使って図示することによって、論理関係を整理する。

**手順** ① 一次要素

手順

- ④一網は広く打て」  
制限字数より多めに書いてから削る。）

#### 〔4〕要約・文章化↓国語力をつける最高の方法

図(戦略図)ができれば、それを文章化するだけ。

| 分類 | 項目     | 内 容 説 明                                                                                        | 記入する接続語・記号                           |
|----|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 順接 | ①繰り返し  | 同じ語（内容）が繰り返されているもの。<br>※キーワード。重要な内容である。                                                        | 「Ⅱ」の記号<br>「言いかえると」など                 |
|    | ②説明    | 前述の語句や文の内容について説明しているもの。                                                                        | 「わかりやすく言う」と、<br>「言いかえると」、<br>「つまり」など |
|    | ③発展    | 「②説明」とは違い、前述の内容を踏まえて主張や分析を発展・深化させたもの。<br>※この後に重要な内容がくる可能性が高い。                                  | 「さらに」<br>「とすると」など                    |
|    | ④まとめ   | 前述の内容をまとめたもの。結論になる場合もある。<br>※この後に重要な内容がくる可能性が高い。                                               | 「つまり」「結局」<br>「要するに」など                |
|    | ⑤原因・結果 | 原因・結果を説明するもの。                                                                                  | 「なぜなら」（原因）<br>「だから」（結果）など            |
|    | ⑥例示    | 「②説明」の一パターン。例による説明など。なお、この部分には論理展開の骨格部分はない。（論理展開の把握の際には、無視できる部分である。）<br>※この前か後ろに重要な内容があるはずである。 | 「例えば」など<br>「まるで」「ような」<br>「もし」など      |
| 対立 | ①逆接    | 前述の内容と相反する内容になるもの。<br>（必ず逆の関係になる。）<br>※論理展開を把握する上で要注意。                                         | 「しかし」「だが」<br>「↑↓」の記号など               |
|    | ②対比    | 前述の内容と対比する内容になるもの。<br>（必ずしも逆の関係になるとは限らない。）<br>※論理展開を把握する上で要注意。                                 | 「しかし」「だが」<br>「↑↓」の記号<br>「別の視点から見ると」  |
|    | ③並列    | 同様のレベルのものを並べるもの。<br>※論理展開を把握する上で要注意。                                                           | 「第二に」「また」「～も」<br>「～の場合は」など           |
| 転換 | 転換     | 話題の転換をはかるもの。                                                                                   | 「ところで」「さて」など                         |

一つの語で複数の項目に入っている場合もあるので注意すること。

## 【第一段落】

現代の日本の開化は一般の開化とどこが違うかというのが問題です。もし一言にしてこの問題を決しようとするならば私はこう断じたい、西洋の開化（すなわち一般の開化）は内発的であつて、日本の現代の開化は外発的である。ここに内発的と言うのは内から自然に出て發展するという意味で、ちようど花が開くようにおのずからつぼみが破れて花卉が外に向かうの言い、また外発的とは外からおつかふさつた他の力でやむを得ず一種の形式を取るのを指したつもりなのです。もう一口説明しますと、西洋の開化は行雲流水のごとく自然に働いているが、御維新後外国と交渉をつけた以後の日本の開化はだいいぶかつてが違います。

## II

もちろんこの国だつて隣つき合ひがある以上はその影響を受けるのがもちろんのことだから、わが日本といへども、昔からそう超然としてたゞ自分だけの活力で発展したわけではない。ある時は三韓またある時は支那というふうにだいたい外国の文化にかぶれた時代もあるでしょうが、長い月日を前後ふつ通しに計算して大体の上から一瞥してみるとまあ比較的内発的の開化で進んで来たといえましょう。少なくとも鎖港排外の空氣で二百年も麻酔したあげく突然西洋文化の刺激に跳ね上がったくらい強烈な影響は、有史以来まだ受けていなかったというのが適當でしょう。日本の開化はあの時から急激に曲折し始めたのであります。また曲折しなければならぬほどの衝動を受けたのであります。これを前のことばで表現しますと、今まで内発的に展開してきたのが、急に自己本位の能力を失つて外から無理押しに押されて、否応なしにその言うとおりにしなければ立ち行かないというありさまになったのであります。それが一時ではない。四、五十年前に一押し押されたなりじつと持ちこたえているなんてらくな刺激ではない。時々々に押され刻々に押されて今日に至つたばかりでなく、向後何年の間か、またはおそらく永久に今日のごとく押されて行かなければ日本が日本として存在できないのだから、外発的というよりほかにしかたがない。

Π

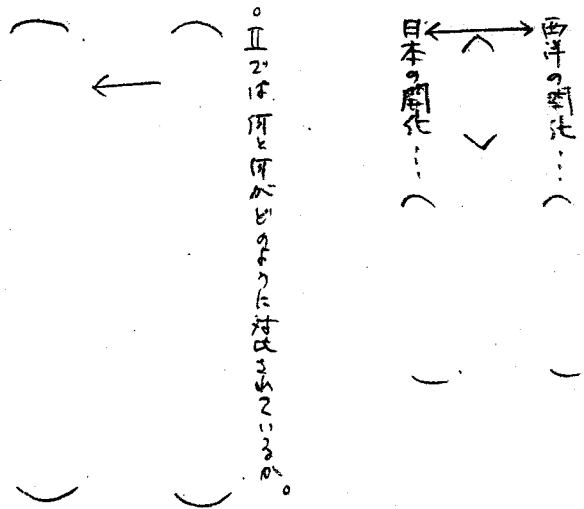
その理由はむしろ明白な話で、我々が四、五十年前初めてぶつかった、また今でも接触を避けるわけに行かないかの西洋の開化というものは、我々よりも数十倍努力節約の機関を有する開化で、また我々よりも数十倍娯楽道楽の方面に積極的に活力を使用し得る方法を具備した開化である。

II-

粗末な説明ではあるが、つまり我々が内発的に展開して十の複雑の程度に開化をこぎつけた折も折、図らざる天の一方から急に二十、三十の複雑の程度に進んだ開化が現れて俄然として我らに打ってかかったのである。この圧迫によつて吾人はやむを得ず自然な発展を余儀なくされるのであるから、今の日本の開化は地道にのそりのそりと歩くのでなくつて、ヤツと気合いをかけてはびよいびよいと飛んでいくのである。開化のあらゆる階段を順々に踏んで通る余裕を持たないから、できるだけ大きな針でぼつぽつ縫つて過ぎるのである。足の地面に触れる所は十尺を通過するうちにわずか一尺くらいなもので、他の九尺は通らないのと一般である。私の外発的という意味はこれでほぼ御了

## 【第二段落】

そういう外発的の開化が心理的にどんな影響を吾人に与うるかというと、ちよつと変なものになります。心理学の講筵でもないので難しいことを申し上げるのもいかがと存じますが、必要の箇所だけをごく簡易に述べて再び本題に戻るつもりでありますから、しばらく御辛抱を願います。我々の心は絶え間なく動いている。あなた方は今、私の講演を聴いておいでになる、私は今あなた方を前において何か言っている、双方ともにこういう自覚がある。それにお互いの心は動いている。働いている。これを意識というのであります。この意識の一部分、時に積もれば一分間くらいのところを絶え間なく動いている大きな意識から切り取って調べてみると、やはり動いている。その動き方は別に私が発明したわけでもなんでもない、ただ西洋の学者が書物に書いたとおりをむとも、45 と思うから紹介するだけであります。すべて一分間の意識にせよ三十秒間の意識にせよその内容が明瞭に心に映ずる点から言えば、のべつ同程度の強さを有して時間の経過



に順着なく、あたかも一つ所にこびりついたように固定したものではない。必ず動く。動くにつれて明らかな点と暗い点ができる。その高低を線で示せば平たい直線では無理なので、やはりいくぶんか勾配のついた弧線、すなわち弓形の曲線で示さなければならなくなる。

こんなに説明するとかえって込み入って難しくなるかもしれませんが、学者はわかつたことをわかりにくく言うもので、素人はわからないことをわかつたようにのみ込んだ顔をするものだから非難は五分五分である。今言つた弧線とか曲線とかいうことをもそつと砕いてお話をすると、物をちよつと見るのにも、見てこれが何であるかということ、がハッキリわかるにはある時間を要するので、すなわち意識が下の方から一定の時間を経て頂点へ上がつてきてハッキリして、ああこれだと思ふ時がくる。それをお見つめていると、今度は視覚が鈍くなつて多少ぼんやりし始めるのだからいったん上の方へ向いた意識の方向がまた下を向いて暗くなりかける。これは実験してあらんになるとわかる。実験といつても機械などはいらない。頭の中がそうなっているのだから、ただ試しさえすれば気がつくのです。本を読むにしても、AということばとBということばとそれからCということばが順々に並んでいればこの三つのことばを順々に理解していくのがあたりまえだから、Aが明らかに頭に映る時はBはまだ意識に上らない。Bが意識の舞台上に上り始める時にはもうAのほうは薄ぼんやりして、だんだん意識のほうに近づいてくる。BからCへ移る時はこれと同じ所作を繰り返すにすぎないのだから、いくら例を長くしても同じことであります。これはきわめて短時間の意識を学者が解剖して我々に示したものでありますが、この解剖は個人の一分間の意識のみならず、一般社会の集合意識にも、それからまた一日、一月、もしくは一年ないし十年の間の意識にも応用のきく解剖で、その特色は多人数になつたつて、長時間にわたつたつて、いっこう変わりはないことと私は信じているのであります。

たとえてみれば、あなた方という多人数の団体が今ここで私の講演を聴いておいでになる。聴いていない方もあるかもしれないが、まあ聴いていけるとする。そうするとその個人でない集合体のあなた方の意識の上には、今私の講演の内容が明らかに入る。と同時に、この講演に来る前あなた方が経験されたこと、すなわち途中で雨が降りだして着物がぬれたとか、また蒸し暑くて途中で難儀であつたとかいう意識は、講演のほうに心を奪うにつれて、だんだん不明瞭不確実になつてくる。またこの講演が終わつて場外に出て涼しい風に吹かれてもすれば、ああよい心持だという意識に心を占領されてしまつて、講演のほうはピタリ忘れてしまふ。私から言えばまったくありがたくない話だが、事実だからやむを得ないのである。私の講演を行住坐臥ともに覚えていらつしやいと言つても、心理作用に反した注文ならだれも承知する者はありません。これと同じように、あなた方という、やはり一個の団体の意識の内容を聞いてみると、たとい一か月にわたるうが、一年にわたるうが、一か月には一か月をくるべき煩平たる意識があり、また一年には一年をまとめるに足る意識があつて、それからそれへと順次に消長しているものと私は断定するのであります。我々も過去を顧みてみると、中学時代とか大学時代とか、皆特別の名の付く時代で、その時代時代の意識がまとまつております。日本人総体の集合意識は過去四、五年前には日露戦争の意識だけになりきつておりました。その後日英同盟の意識で占領された時代もあります。

## II

かく推論の結果、心理学者の解剖を拡張して、集合の意識やまた長時間の意識の上に、応用して考えてみますと、人間活力の発展の経路たる開化というものの動くラインもまた、波動を描いて弧線をいくつもいくつもつなぎ合せて進んでいくと言わなければなりません。むろん描かれる波の数は無数で、その一波一波の長短も高低も千差万別でありましようが、やはり甲の波が乙の波を呼び出し、乙の波がまた丙の波を誘い出し、順次に推移しなければならぬ。一言にして言へば、開化の推移はどうしても内発的でなければならぬと申し上げたいのであります。ちよつとした話が、私は今ここで演説をしている。するとそれをお聞きになるあなた方のほうから言へば、初めの十分間くらいは私が何を主眼に言うかよくわからない、二十分目くらいになつてようやく筋道がついて、三十分目くらいにはようやく脂がつつて少しはちよつとおもしろくなり、四十分目にはまたぼんやりだし、五十分目には退屈を催し、一時間目にはあくびが出る。と、そう私の想像どおりいかにかかわりませんが、もしそうだとするならば、私が

II. 中心的内容と主要な指摘  
I. 要約せよ。(四十字程度)

無理にここで二時間も三時間もしゃべっては、あなた方の心理作用に反して我を張ると同じことで決して成功はできない。なぜかと言えば、この講演がその場合あなた方の自然に逆らった外発的のものになるからであります。いくらものを絞りを絞らして怒鳴ってみたって、あなた方はもう私の講演の要求の度を経過したのだからいけません。あなた方は講演よりも茶菓子が食いたくなったり酒が飲みたくなったり、氷水が欲しくなったりする。そのほうが内発的なことから自然の推移で無理のないところなのである。

## 【第三段落】

これだけ説明しておいて現代日本の開化に後戻りをしたら、たいてい大丈夫でしょう。日本の開化は自然の波動を描いて、甲の波が乙の波を生み、乙の波が丙の波を押し出すように内発的に進んでいるかというのが当面の問題なのですが、残念ながらそういつていないので困るのです。いつていないというのは、先ほども申したとおり、活力節約、活力消耗の二大方面においてちょうど複雑の程度二十を有しておったところへ、俄然外部の圧迫で三十代まで飛びつかなければならなくなったのですから、あたかも天狗にさらわれた男のように無我夢中で飛びついていくのです。その経路はほとんど自覚してないくらいのもので、もともと開化が甲の波から乙の波へ移るのは、すでに甲は飽いていたたまれないから、内部欲求の必要上ずるりと新しい一波を開展するので、甲の波の好所も悪所も、酸いも甘いもなめ尽くした上に、ようやく一生面を開いたと言つてよろしい。したがって従来経験し尽くした甲の波には、衣を脱いだ蛇と同様、未練もなければ残り惜しい心持ちもしない。のみならず、新たに移った乙の波にもまれながら、毫も借り着をして世間体を繕っているという感が起こらない。ところが日本の現代の開化を支配している波は西洋の潮流でその波を渡る日本人は西洋人でないのだから、新しい波が寄せるたびに自分がその中で食客をして気兼ねをしているような気持ちになる。新しい波はとにかく、今しがたようやくの思いで脱却した古い波の特質やら真相やらもわきまえる暇のないうちに、もう捨てなければならなくなってしまう。食膳に向かつて皿の数を味わい尽くすどころか、元来どんな御馳走が出たかハッキリと目に映じない前に、もう膳を引いて新しいのを並べられたと同じことであります。こういう開化の影響を受ける国民は、どこかに空虚の感がなければなりません。またどこかに不満と不安の念を抱かなければなりません。それをあたかもこの開化が内発的でもあるかのとき顔をして得意でいる人のあるのはよろしくない。それはよほどハイカラです、よろしくない。虚偽でもある。軽薄でもある。自分はまだたばこを吸つてもろくに味さえわからない子どものくせに、たばこを吸つてさもうまそうふうをしたら生意氣でしょう。それであえてしなれば立ちゆかない日本人はいふん悲酸な国民と言わなければならぬ。

開化の名は下せないかもしれないが、西洋人と日本人の社交を見てもちよつと気がつくでしょう。西洋人と交際をする以上、日本本位ではどうしてもうまくいきません。交際しなくともよろしいと言えはそれまでであるが、情けないかな交際しなければならぬのが日本の現状であります。しこうして強いものと交際すれば、どうしても己を捨てて先方の習慣に従わなければならなくなる。我々があの人はフオークの持ちようも知らないとか、ナイフの持ちようも心得ないとか言つて、他を批評して得意なのは、つまりはなんでもない、ただ西洋人が我々より強いからである。我々のほうが強ければあつちにくつちのまねをさせて主客の位置を換えるのは容易なことである。が、そういかないうちからこつちで先方のまねをする。しかも自然天然に発展してきた風俗を急に變えるわけにいかぬから、ただ器械的に西洋の礼式などを覚えるよりほかにしかたがない。自然と内に発酵して醸された礼式でないから、取つてつけたようで甚だ見苦しい。これは開化じゃない、開化の一端とも言えないほどの些細なことであるが、そういう些細なことに至るまで、我々のやつてゐることは内発的でない、外発的である。これを一言にして言えは、現代日本の開化は皮相上滑りの開化であるということに帰着するのである。むろん一から十まで何から何までとは言わない。複雑な問題に対してそう過激のことばは慎まなければ悪いが、我々の開化の一部分、あるいは大部分はいくらうぬぼれてみても上滑りと評するよりいたしかたがない。しかしそれが悪いからおよしなさいと言うのではない。事実やむを得ない、涙をのんで上滑りに滑つていかなければならぬと言ふのです。

・西洋の開化と日本の開化について対比して  
部分に——線を引く。↑↓を施せ。  
(三行ト)

・筆者は日本の開化とその影響について  
どのように説明しているか。(百字以内)

・IIと二十字以内で要約せよ。

・作業①

・作業②

【第四段落】

それでは子どもが背に負われて大人といつしよに歩くようなまねをやめて、地道に発展の順序を尽くして進むことはどうしてもできまいかという相談が出るかもしれない。そういう御相談が出れば私はないこともないとお答えをする。が、西洋で百年かかってようやく今日に発展した開化を、日本人が十年に年期をつづめて、しかも空虚のそしりを免れるように、だれが見ても内発的であると認めるような推移をやろうとすれば、これまたゆゆしき結果に陥るのであります。百年の経験で十年で上滑りもせずやり遂げようとするならば、年限が十分の一に縮まるだけわが活力は十倍に増さなければならぬのは、算術の初歩を心得た者さえたやすく首肯するところである。これは学問を例にお話をするのがいちばん早わかりである。西洋の新しい説などを生かじりにしてほらを吹くのは論外として、ほんとうに自分が研究を積んで甲の説から乙の説に移り、また乙から丙に進んで、毫も流行を追うの陋態なく、またことさらに新奇をてらうの虚栄心なく、まったく自然の順序階級を内発的に経て、しかも彼ら西洋人が百年もかかってようやく到着し得た分化の極端に、我々が維新後四、五十年の教育の力で達したと仮定する。体力脳力ともに我らよりも旺盛な西洋人が百年の歳月を費やしたものを、いかに先駆の困難を勘定に入れないにしたところで、わずかの半ばに足らぬ歳月で明々地に通過し終るゝるとしたならば、吾人はこの驚くべき知識の収穫を誇り得ると同時に、一敗また起つあたわざるの神経衰弱にかかつて、氣息奄々として今や路傍に呻吟しつゝあるは必然の結果としてまさに起こるべき現象でありましょう。現に少し落ち着いて考えてみると、大学の教授を十年間一生懸命にやったら、たいていの者は神経衰弱にかかりがちじゃないでしょうか。ピンピンしているのは、皆うその学者だと申しては、諛弊があるが、まあどつちかと言えば神経衰弱にかかるほうがあたりまえのように思われます。学者を例に引いたのは単にわかりやすいためで、理屈は開化のどの方面へも応用ができるつもりです。

【第五段落】

開化というものがいかに進歩しても、案外その開化の賜として我々の受くる安心の度は微弱なもので、競争その他からいらいらしなくてはならない心配を勘定に入れると、吾人の幸福は野蛮時代とそう変わりはないやうである。その上に、今言つた現代日本が置かれたる特殊の状況によつて、我々の開化が機械的に変化を余儀なくされるためにただ上皮を滑つていき、また滑るまいと思つてふんばるために神経衰弱になるとすれば、どうも日本人は気の毒と言わんか哀れと言わんか、まことに言語道断の窮状に陥つたものであります。私の結論はそれだけにすぎない。あなさいとか、こうしなければならぬとか言うのではない。どうすることもできない、実に困つたと嘆息するだけできつめて悲観的の結論であります。こんな結論にはかえつて到着しないほうが幸せであつたのでしょうか。真というものは、知らないうちは知りたいけれども、知つてからは、かえつてアア知らないほうがよかつたと思つてゐる時々あります。

とにかく私の解剖したことがほんとうのところだとすれば、我々は日本の将来というものについてどうしても悲観したくなるのであります。外国人に対しておれの国には富士山があるというやうなばかは、今日はあまり言わないやうだが、戦争以後一等国になつたんだという高慢な声は随所に聞くやうである。なかなか気らくな見方をすればできるものだと思います。ではどうしてこの急場を切り抜けるかと質問されても、前申したとおり私には名案も何もない。ただできるだけ神経衰弱にかからない程度において、内発的に変化していくがよからうというやうな、体裁のいいことを言うよりほかにしかたがない。苦い真実を臆面なく諸君の前にさらけ出して、幸福な諸君にたとい一時間たりとも不快の念を与えたのは重々おおびを申し上げますが、また、私の述べ来たつたところもまた相当の論拠と応分の思索の結果から出たきまじめの意見であるという点にも御同情になつて、悪いところは目に見ていただきたいのであります。

。外発的開化（ ）

（ ）

。内発的開化（ ）

（ ）

（ ）

。第一〜第四段落を受けつゝ

その内容

【第一段落】

I 現代の日本の開化は一般の開化とどこが違つかというのが問題です。もし一言にしてこの問題を決しようとするならば私はこう断じたい、西洋の開化(すなわち一般の開化)は内発的であつて、日本の現代の開化は外発的である。ここに内発的と言ふのは内から自然に出て発展するという意味で、ちよいと花が開くようにおのずからつぼみが破れて花卉が外に向かうの言い、また外発的とは外からおつたおぼつた他の力(やむを得ず一種の形式を取るのを指したつもりなのです。もう一口説明しますと、西洋の開化は行雲流水のごとく自然に働いているが、御維新後外国と交渉をつけた以後の日本の開化はいぶかづてが違います。

II もちろんこの国だつて隣つき合ひがある以上はその影響を受けるのがもちろんのことだから、わが日本といえども、昔からそう超然としてただ自分だけの活力で発展したわけではない。ある時は三韓またある時は支那というふうにだいたい外国の文化にかぶれた時代もあるでしょうが、長い月日を前後あつ通しに計算して大体の上から一瞥してみるとまあ比較的内発的の開化で進んで来たといえましょう。少なくとも鎖港排外の空氣で二百年も麻酔したあげく突然西洋文化の刺激に跳ね上がったくらい強烈な影響は、有史以来まだ受けていなかったというのが適當でしょう。日本の開化はあの時から急激に曲折し始めたのであります。また曲折しなければならぬほどの衝動を受けたのであります。これを前のことばで表現しますと、今まで内発的に展開してきたのが、急に自己本位の能力を失つて外から無理押しに押されて、否応なしにその言つたとおりにしなければ立ち行かないというありさまになつたのであります。それが一時ではない。四、五十年前に一押し押されたなりじつと持ちこたえているなんてらくな刺激ではない。時々押しに押され刻々に押されて今日に至つたばかりでなく、向後何年の間か、またはおそらく永久に今日ののごとく押されて行かなければ日本が日本として存在できないのだから、外発的というよりほかにしかたがない。

III その理由はむろん明白な話で、我々が四、五十年前初めてぶつかった、また今でも接触を避けるわけに行かないかの西洋の開化というものは、我々よりも数十倍努力節約の機関を有する開化で、また我々よりも数十倍娯楽道楽の方面に積極的に活力を使用し得る方法を具備した開化である。

IV 粗末な説明ではあるが、つまり我々が内発的に展開して十の複雑の程度に開化をこぎつけた折も折、図らざる天の一方から急に二十、三十の複雑の程度に進んだ開化が現れて俄然として我らに打つてかかったのである。この圧迫によつて吾人はやむを得ず自然な発展を余儀なくされるのであるから、今の日本の開化は地道にのそりのそりと歩くのでなくつて、ヤツと氣合ひをかけてはびよいびよいと飛んでいくのである。開化のあらゆる階段を順々に踏んで通る余裕を持たないから、できるだけ大きな針でぼつぽつ縫つて過ぎるのである。足の地面に触れる所は十尺を通過するうちにわずか一尺くらいのもので、他の九尺は通らないのと一般である。私の外発的という意味はこれでは御了了解になつたらうと思ひます。

【第二段落】

I そういう外発的の開化が心理的にどんな影響を吾人に与うるかという点、ちよつと変なものになります。心理学の講義でもないのに難しいことを申し上げるのもいかがと存じますが、必要の箇所だけをごく簡易に述べて再び本題に戻るつもりでありますから、しばらく御辛抱を願ひます。我々の心は絶え間なく動いている。あなた方は今、私の講演を聴いておいでになる、私は今あなた方を前において何か言つてゐる、双方ともにこゝういう自覚がある。それにお互ひの心は動いている。働いている。これを意識といふのであります。この意識の一部分、時に積もれば一分間くらいのところを絶え間なく動いている大きな意識から切り取つて調べてみると、やはり動いている。その動き方は別に私が發明したわけでもなんでもない、ただ西洋の学者が書物に書いたとおりをもつとも、よその内容が明瞭に心に映ずる点から言えば、のべつ同程度の強さを有して時間の経過

西洋の開化……(内発的)  
内から自然に出て発展する。  
日本……(外発的)  
外からあつた他の力(やむを得ず一種の形式を取る)。

II では何と何べいどうに決はさるゝのか。

(鎖国までの内発的開化)



(開国後の外発的開化)

★変化の説明や。

「Aは……Bは……だ」

★変化につけて説明や。

「……は……」

III は「I, II」のへ理由

西洋の開化が我々よりも数十倍努力節約が可能で、娯楽道楽に活力を使用可能かつた。

外発的開化の「不自然さ」

開化の段階を順に通らない。

★説明は比喩が例は不可。

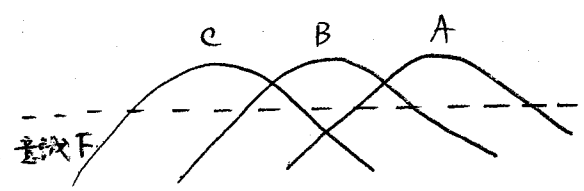
に順着なく、あたかも一つ所にこびりついたように固定したものではない。必ず動く。動くにつれて明らかな点と暗い点ができる。その高低を線で示せば平たい直線では無理なので、やはりいくぶんか勾配のついた弧線、すなわち弓形の曲線で示さなければならなくなる。

こんなに説明するとかえって込み入って難しくなるかもしれませんが、学者はわかったことをわかりにくく言うもので、素人はわからないことをわかったようにのみ込んだ顔をするものだから非難は五分五分である。今言った弧線とか曲線とかいうことをもそつと砕いてお話をすると、物をちよつと見るのにも、見てこれが何であるかということハッキリわかるにはある時間を要するので、すなわち意識が下の方から一定の時間を経て頂点へ上がつてきてハッキリして、ああこれだと思ふ時がくる。それをなお見つめていけると、今度は視覚が鈍くなつて多少ぼんやりし始めるのだからいったん上の方へ向いた意識の方向がまた下を向いて暗くなりかける。これは実験してこらんになるとわかる。実験といつても機械などはいらない。頭の中がそうなっているのだから、ただ試しさえすれば気がつくのです。本を読むにしても、AといふことばとBといふことばとそれからCといふことばが順々に並んでいけばこの三つのことばを順々に理解していくのがあたりまえだから、Aが明らかに頭に映る時はBはまだ意識に上らない。Bが意識の舞台上に上り始める時にはもうAのほうは薄ぼんやりして、だんだん意識域のほうに近づいてくる。BからCへ移る時はこれと同じ所作を繰り返すにすぎないのだから、いくつ例を長くしても同じことであります。これはきわめて短時間の意識を学者が解剖して我々に示したものでありますが、この解剖は個人の一分間の意識のみならず、一般社会の集合意識にも、それからまた一日、一月、もしくは一年ないし十年の間の意識にも応用のきく解剖で、その特色は多人数になつたつて、長時間にわたつたつて、いっこう変わることはないことと私は信じているのであります。

たとえてみれば、あなた方という多人数の団体が今こゝで私の講演を聴いておいでになる。聴いていない方もあるかもしれないが、まあ聴いていられるとする。そうするとその個人でない集合体のあなた方の意識の上には、今私の講演の内容が明らかに入る。と同時に、この講演に来る前あなた方が経験されたこと、すなわち途中で雨が降りだして着物がぬれたとか、また蒸し暑くて途中で難儀であつたとかいふ意識は、講演のほうに心を奪つて、だんだん不透明不確実になつてくる。またこの講演が終わつて場外に出て涼しい風に吹かれてもすれば、ああよい心持だといふ意識に心を占領されてしまつて、講演のほうにはピツタリ忘れてしまふ。私から言えばまったくありがたくない話だが、事実だからやむを得ないのである。私の講演を行住坐臥ともに覚えていらつしやいと言つても、心理作用に反した注文ならだれも承知する者はありません。これと同じように、あなた方という、やはり一個の団体の意識の内容を聞してみると、たとい一か月にわたるうが、一年にわたるうが、一か月には一か月をくるべき炳平たる意識があり、また一年には一年をまとめるに足る意識があつて、それからそれへと順次に消長しているものと私は断定するのであります。我々も過去を顧みてみると、中学時代とか大学時代とか、皆特別の名の付く時代で、その時代時代の意識がまとまつております。日本人総体の集合意識は過去四、五年前には日露戦争の意識だけになりきつておりました。その後日英同盟の意識で占領された時代もあります。

かく推論の結果、心理学者の解剖を拡張して、集合の意識やまた長時間の意識の上に應用して考えてみますと、人間活力の発展の経路たる開化といふものの動くラインもまた、波動を描いて弧線をいくつもいくつもつなぎ合せて進んでいくと言わなければなりません。むろん描かれる波の数は無数で、その一波一波の長短も高低も千差万別でありましようが、やはり甲の波が乙の波を呼び出し、乙の波がまた丙の波を誘ひ出し、つて順次に推移しなければならぬ。一言にして言えば、開化の推移はどうしても内発的でなければならぬと申し上げたいのであります。ちよつとした話が、私は今こゝで演説をしている。するとそれをお聞きになるあなた方のほうから言えば、初めの十分間くらいは私が何を主眼に言うかよくわからない、二十分目くらいになつてようやく筋道がついて、三十分目くらいにはようやく脂がのつて少しはおもしろくなり、四十分目にはまたぼんやりしだし、五十分目には退屈を催し、一時間目にはあくびが出る。と、そう私の想像どおりいかにかいかわかりませんが、もしそうだとするならば、私が

( 巻 )  
I. 要約せよ。(二十五字以内)  
意識は不透明から明瞭、そして不透明へと順に変化する。  
(「変化」と「変化する」様子をそれぞれ②、③で示せ。)



II. 中心的内容を二点指摘せよ。  
II. 要約せよ。(四十字程度)  
開化も波動を描いて弧線をつなぎ合せて進んでいく。内発的変化は外発的変化を誘ひ出す。

a ②  
b ①  
5.5

無理にここで二時間も三時間もしゃべっては、あなた方の心理作用に反して、我を張ると同じことで決して成功はできない。なぜかと言えば、この講演がその場合あなた方の自然に逆らった外発的のものになるからであります。いくらのどを絞り声をからして怒鳴って見たって、あなた方はもう私の講演の要求の度を超過したのだからいけません。あなた方は講演よりも茶菓子が食いたくなったり酒が飲みたくなったり、氷水が欲しくなったりする。そのほうが内発的なものだから自然の推移で無理のないところなのである。

### 【第三段落】

これだけ説明しておいて現代日本の開化に後戻りをしたら、たいい大丈夫でしょう。日本の開化は自然の波動を描いて、甲の波が乙の波を生み、乙の波が丙の波を押し出すように内発的に進んでいるかというのが当面の問題なのですが、残念ながらそういつていないので困るのです。いつていないというのは、先ほども申したとおり、活力節約、活力消耗の二大方面においてちょうど複雑の程度二十を有しておったところへ、俄然外部の圧迫で三十代まで飛びつかなければならなくなったのですから、あたかも天狗にさらわれた男のように無我夢中で飛びついていくのです。その経路はほとんど自覚してないくらいのもので、もともと開化が甲の波から乙の波へ移るのは、すでに甲は飽いていたまれないから、内部欲求の必要上ずるりと新しい一波を開展するので、甲の波の好所も悪所も、酸いも甘いもなめ尽くした上に、ようやく一生面を開いたと言つてよろしい。したがって従来経験し尽くした甲の波には、衣を脱いだ蛇と同様、未練もなければ残り惜しい心持ちもしない。のみならず、新たに移った乙の波にもまれないが、毫も借り着をして世間体を繕っているという感が起らない。ところが日本の現代の開化を支配している波は西洋の潮流でその波を渡る日本人は西洋人でないのだから、新しい波が寄せるたびに自分がその中で食客をして気兼ねをしているような気持ちになる。新しい波はとにかく、今しがたようやくの思いで脱却した古い波の特質やら真相やらもわきまえる暇のないうちに、もう捨てなければならなくなつてしまつた。食膳に向かつて血の数を味わい尽くすどころか、元来どんな御馳走が出たかハッキリと目に映じない前に、もう膳を引いて新しいのを並べられたと同じことであります。こういう開化の影響を受ける国民は、どこかに空虚の感がなければなりません。またどこかに不満と不安の念を抱かなければなりません。それをあたかもこの開化が内発的でもあるかのとき顔をして得意でいる人のあるのはよろしくない。それはよほどハイカラです、よろしくない。虚偽でもある。軽薄でもある。自分はまだたばこを吸つてもろくに味さえわかない子どものくせに、たばこを吸つてさもうまそうなふうをしたら生意氣でしょう。それであえてしなければ立ちゆかない日本人はいふん悲酸な国民と言わなければならぬ。

開化の名は下せないかもしれないが、西洋人と日本人の社交を見てもちよつと気がつくでしょう。西洋人と交際をする以上、日本本位ではどうしてもうまくいきません。交際しなくともよろしいと言へばそれまでであるが、情けないかな交際しなければならぬのが日本の現状であります。しこうして強いものと交際すれば、どうしても己を捨てて先方の習慣に従わなければならなくなる。我々があの人はフオークの持ちようも知らないとか、ナイフの持ちようも心得ないとか言つて、他を批評して得意なのは、つまりはなんでもない、ただ西洋人が我々より強いからである。我々のほうが強ければあつちのこつちのまねをさせて主客の位置を換えるのは容易なことである。が、そういかにいかに、ただ器械的に西洋の礼式などを覚えるよりほかにしかたがない。自然と内に発酵して醸された礼式でないから、取つてつけたようであつた見苦しい。これは開化じゃない、開化の一端とも言えないほどの些細なことであるが、そういう些細なことに至るまで、我々のやつていることは内発的でない、外発的である。これを一言にして言へば、現代日本の開化は皮相、滑りの開化であるということに帰着するのである。むろん一から十まで何から何までとは言わない。複雑な問題に対してそう過激のこととは慎まなければ悪いが、我々の開化の一部分、あるいは大部分はいくらうぬぼれてみても滑りと評するよりいたしかたがない。しかしそれが悪いからおよしなさいと言つてはいけません。事実やむを得ない、涙をのんで滑りに滑つていかなければならぬと言つては、

。西洋の開化と日本の開化について対比して、  
部合に——線を引く。↑↓を施せ。  
(三セツト)  
筆者は日本の開化とその影響について、  
どのように説明しているか。(百字以内)

日本の開化は外部の圧迫によるものではなく、  
開化のその後の段階について内実も  
把握できず、自分のものだと誤りを感じ  
もつため、日本人は空虚感や不安  
を感じざるを得ない。(八十文字)

★設問の文意に注意。長い文意はヒント。  
筆者は「洋風」文意は、筆者の述べた  
いふ通りにまとめる。トイフヒント。

★傍線部と設問又は三回読む。  
筆者の意図をつかむ。

★は喻たとはいふ不可。

。IIと二十字以内で要約せよ。

現代日本の開化は上滑りである。  
(十八字)

。作業①  済す。

。作業② 繰り返し読み直しを話さず

【第四段落】

それでは子どもが背に負われて大人といつしよに歩くようなまねをやめて、地道に発展の順序を尽くして進むことはどうしてもできまいかという相談が出るかもしれない。そういう御相談が出れば私は私はないこともないとお答えをする。が、西洋で百年かかつてようやく今日に発展した開化を、日本人が十年に年期をつづめて、しかも空虚のそしりを免れるように、だれが見ても内発的であると認めるような推移をやろうとすれば、これまたゆゆしき結果に陥るのであります。百年の経験で十年で上滑りもせずやり遂げようとするならば、年限が十分の一に縮まるだけだが活力は十倍に増えなければならぬのは、算術の初歩を心得た者さえたやすく首肯するところである。これは学問を例にお話をするのでいちばん早わかりである。西洋の新しい説などを生かじりにしてほらを吹くのは論外として、ほんとうに自分が研究を積んで申の説からこの説に移り、また乙から丙に進んで、毫も流行を追うの陋態なく、またことさらに新奇をてらうの虚栄心なく、まったく自然の順序階級を内発的に経て、しかも彼ら西洋人が百年もかかってようやく到着し得た分化の極端に、我々が維新後四、五十年の教育の力で達したと仮定する。体力脳力ともに我らよりも旺盛な西洋人が百年の歳月を費やしたものを、いかに先駆の困難を勘定に入れないにしたところで、わずかの半ばに足らぬ歳月で明々地に通過し終つてゐるとしたならば、吾人はこの驚くべき知識の收穫を誇り得ると同時に、一敗また起つてゐる。あたわざるの神経衰弱にかかつて、氣息奄々として今や路傍に呻吟しつゝあるは必然の結果としてまさに起こるべき現象でありましょう。現に少し落ち着いて考えてみると、大学の教授を十年間一生懸命にやったら、たいていの者は神経衰弱にかかりがちやないでしようか。ピンピンしているのは、皆うその学者だと申しては語弊があるが、まあどつちかと言えば神経衰弱にかかるほうがあたりまえのように思われます。学者を例に引いたのは単にわかりやすいためで、理屈は開化のどの方面へも応用ができるつもりです。

【第五段落】

開化というものがいかに進歩しても、案外その開化の賜として我々の受くる安心の度は微弱なもので、競争その他からいらいらしなければならぬ心配を勘定に入れると、吾人の幸福は野蠻時代とそう変わりはないやうである。その上に、今言つた現代日本が置かれたる特殊の状況によつて、我々の開化が機械的に変化を余儀なくされるためにただ上皮を滑つていき、また滑るまいと思つてふんばるために神経衰弱になるとすれば、どうも日本人は気の毒と言わんか哀れと言わんか、まことに言語道断の窮状に陥つたものであります。私の結論はそれだけにすぎない。あななきいと、こうしなければならぬとか言うのではない。どうすることもできない、実に困つたと嘆息するだけで済むめでしやう。真というものは、知らないうちは知りたいけれども、知つてからは、かえつてアア知らないほうがよかつたと思ふことが時々あります。

とにかく私の解剖したことがほんとうのところだとすれば、我々は日本の将来というものについてどうしても悲観したくなるのであります。外国人に対しておれの国には富士山があるといううなばかは、今日はあまり言わないやうだが、戦争以後一等国になつたんだという高慢な声は随所に聞くやうである。なかなか気らくな見方をすればできるものだと思います。ではどうしてこの急場を切り抜けるかと質問されても、前申したとおり私には名案も何もない。ただできるだけ神経衰弱にかからない程度において、内発的に変化していくがよからうというやうな、体裁のいいことを言うよりほかにしかたがない。苦い真実を臆面なく諸君の前にさらけ出して、幸福な諸君にたとい一時間たりとも不快の念を与えたのは重々おおびを申し上げますが、また、私の述べ来たつたところもまた相当の論拠と底分の思索の結果から出たきまじめの意見であるという点にも御同情になつて、悪いところは目に見ていただきたいのであります。

外発的開化(上滑り)の開化

X ← 内発的開化

内発的開化... できることもない。

② 年期を節制すること、必要な若力は及大例

① 増大するを、疲弊してしまひ、(神経衰弱になる)

X ← 内発的開化

第一、第四段落を受けつての(結論)

その内容(七十字程度)

開化が強要するに於ては、上滑りになり、また上滑りにならぬために、日本人は

神経衰弱になる。ならば、日本人は

窮状に陥つたものである。(六十五字)

a. b. c. 各②点。表現不備、適宜減点。